

大阪駅周辺地区

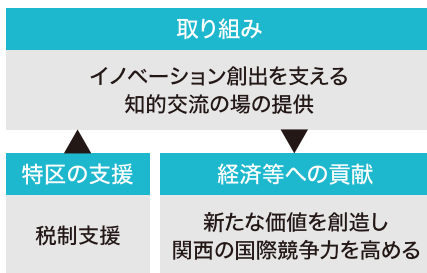


世界有数の大都市圏を形成するエリアに新たな産業と機能を創造する

大阪駅前に立地する「ナレッジキャピタル」を中心に、ライフ分野、グリーン分野をはじめとする新産業の創出と成長産業の集積を推進。日本初の知的創造を実現する「都市型イノベーション」に取り組む。

事例 1 一般社団法人ナレッジキャピタル

事例概要



4つのミッションを掲げる 世界初の知的創造・交流の場

2013年4月、民間の開発事業者12社により開業した大型複合施設「グランフロント大阪」。JR大阪駅に直結し、ショップやレストラン、ホテル、オフィス、さらにはガーデンや広場まで備えたこの新しい「まち」の中核を担うのがナレッジキャピタルだ。

コンセプトに掲げるのは「世界初の知的創造・交流の場」。多くの人が行き交う好立地と多様な機能を併せ持つという施設のメリットを生かし、企業人、研究者、科学者、アーティスト、クリエイター、一般生活者など、あらゆる人の交流をサポートして多様なイノベーションにつなげている。「ナレッジキャピタルは、『産業創出』『文化発信』『国際交流』『人材育成』をミッションに、感性と技術を融合させた新たな価値の創造を目指しています。特区関連のライフ分野・グリーン分野はもちろん、それ以外の分野においてもイノベーションを下支えする幅広い活動をしています」と一般社団法人ナレッジキャピタル事業統括部長の中野達也さんは話す。

グランフロント大阪北館に、交流の拠点となる会員制サロン「ナレッジサロン」をはじめ、企業や大学の研究成果や開発品を展示する「The Lab.みんなで世界一研究所」、ベンチャー企業のスタートアップスペースとなる「コラボオフィス」、研究やビジネスの集積拠点として機能する「ナレッジオフィス」など、創造と交流のための場を用意。マッチングからプロジェクトの立ち上げ、コラボレーション、研究開発、情報発信まで、ワンストップでできる環境を整えている。

海外の機関・企業と連携し 国際的なプロジェクトが進行

取り組みはさまざまな形で実を結んでいる。海外の機関や企業との交流を積極的に進めて成果を挙げている国際連携では、これまでに香港や台湾、フランス、オーストリア、ポーランドなどの11の機関と相互連携に関する覚書(MOU)を締結。共同研究やイベントの開催、ビジネスマッチングなど国際的なプロジェクトを具体化させてきた。

提携先の一つであるオーストリアの文化機関・アルスエレクトロニカとは、継続的にコラボレーションイベントを開催。アルスエレクトロニカのメンバーやアーティストがナレッジキャピタルを訪れ、日本のアーティストとともに作品を展示するほか、トークセッションやワークショップを繰り広げている。「MOUの締結にとどまらず、目に見える活動にしていくことを重視しています。アルスエレクトロニカはアートとビジネスを結び付けた世界的な文化機関。連携することでアートの力を社会に還元したい」と中野さんは言う。

今後はさらにこうした連携を強化。連携先を広げ、相互交流やマッチングはもちろん、連携機関が研究・開発した技術やノウハウをナレッジキャピタルに参画する企業や大学が活用できる仕組みづくりを目指す。



海外からの視察も多く、国際的な連携が進んでいる。
写真は降雨体験ができる大阪大学の作品展示

新しい学びの場を提供 イノベーション生む人材を

次世代を見据えた人材育成にも多角的なアプローチで取り組んでいる。大学や企業の研究者と一般参加者が一緒に考え対話する人気



大学や企業と連携し、知のプログラムを提供する
「ナレッジキャピタル超学校」

の講座「ナレッジキャピタル超学校」や、子ども向けの体験学習イベント「ナレッジキャピタルワークショップフェス」、中学生向けの実践学習といったプログラムを年間を通して展開するなど、新しい学びのスタイルを確立してきた。「未来の仕事」をテーマに中学生と高校生にアイデアを募るコンテストでは、書類選考を通過した中高生が毎年3月に催される「ナレッジイノベーションアワード」で公開プレゼンテーション・最終選考会に臨み、上位入賞者に賞が授与される。学校では学べないことに挑戦できる絶好の機会と、学校を挙げて取り組むケースも出てきている。「広く人材を育てることはイノベーションの基をつくることになる。ここから人材のイノベーションも図りたいと考えています」と中野さん。

ミッションに掲げる新たなビジネスの創出や大阪・関西の文化発信でも、ナレッジキャピタルの名は存在感を増している。「特区認定を追い風にして『大阪から世界を変える』を合言葉に、これからも新しい価値を生み出していきたい」。大阪駅周辺地区の「知」の拠点が担う革新的な取り組みの数々。大阪、そして関西の競争力を強化する動きはますます広がりを見せそうだ。



中学生が「未来の仕事」をテーマにプレゼンテーション。
毎年3月に最終選考会が開催される



【左】メインホールは約1,700㎡の空間を備え、国際会議や学術会議、展示会などに利用されている
【右】グリーン(新エネルギー)分野への取り組みである「グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム」でも使用された

事例概要

取り組み

大阪から世界へ情報発信する
コンベンションをサポート

特区の支援

税制支援・
行政との連携

経済等への貢献

質の高い
コンベンションを通じた
地区全体の活性化

抜群の利便性を誇る 駅直結コンベンション施設

北海道洞爺湖サミットや伊勢志摩サミットで首脳会議を担当するなど、国際会議運営の最大手として知られる(株)コングレ。同社が業界初となる民設民営のコンベンション施設として2013年にオープンさせたのが「ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター」だ。大阪駅周辺地区の中心となるグランフロント大阪に「世界初の知的創造・交流の場」として誕生したナレッジキャピタルのコア施設で、大型のコンベンションに対応できる。

最大の特徴は、JR大阪駅に直結する利便性。駅とダイレクトにつながり、関西国際空港、大阪国際空港とのアクセスも極めて便利である。館内にはメインの大ホールから中・小のカンファレンスルームまでそろい、国際会議や学術会議はもちろん、展示会や見本市、セミナーなどさまざまな分野と規模のコンベンションが開催されてきた。「交通アクセスの良さが参加のしやすさや集客の良さにつながっています。忙しい時代に合ったコンベンション

施設です」と同センターゼネラルマネージャーの小堀英昭さんは話す。稼働状況は好調で、関西広域連合が開催する「グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム」の会場に使われるなど、特区関連のイノベーションを支える役割も果たしている。

フレキシブルな対応で 交流と発信をサポート

多様なサービスへの評価も高い。音響や映像など設備面の充実はもちろん、通訳や案内などソフト面のサポートも万全だ。「フレキシブルな対応で満足度を高めたい。コンベンション運営会社の施設だからこそできることがたくさんあります」と小堀さん。強みは、場の提供だけでなく、「コト」の提供までできるノウハウだと言う。

医学・薬学関連の学術学会の運営を多数手掛け、ライフ分野の交流や情報発信にも貢献してきた。2015年には2万人規模の日本循環器学会学術集会をシャトルバスで結んだ大阪国際会議場と連携して開催。グランフロント大阪の一角に市民向けPRコーナーを設置するなど、多くの人が行き交う駅前立地のメリットを生かしたアイデアも好評を得た。地下2階にあるコンベンションセンターが来場者を集めることでグランフロント大阪、さらには大阪駅周辺ににぎわいをもたらす噴水効果にはますます期待が高まっている。

同社取締役の山口朋子さんは、「コンベンションセンターは、民間でありながら公共のインフラでもあると認識しています。学生のイベントに協力するなど、収益オンリーではない事業も使命の一つです」と話す。オープンから間

もなく5年。多岐にわたるニーズへの細やかな対応で着実にリピーターを増やしている。

自主事業の実施も本格化 活性化やビジネスにつなげる

同社主催の自主事業も本格化させている。2017年12月には同センターを会場に「ウーマングランフェスタ」と題した女性向けのイベントを初めて開催。人気講師によるウォーキングやテーブルコーディネートなどのセミナー、占星術研究家のトークショー、キッズファッションショー、芸人によるエンターテインメントショーなど、多彩なコンテンツを用意したことで大いににぎわった。「コンベンションセンターの認知度は高まっていますが、今後はさらに子どもにも知ってもらえる施設にしたい。気軽に足を運んでもらえるよう、間口を広げてブレイクダウンした催しにも力を入れていきます」と小堀さん。

2018年8月には、日本スポーツ産業学会などと「スポーツビジネスジャパン2018」と題した大型イベントを主催する。関西が国際的なスポーツ産業の集積地として成長することが期待される中、あらゆるスポーツビジネスの機会を生み出す催しとして、国内外から多数の人や企業が訪れる予定だ。

これまでを振り返って山口さんは「この場で開かれたコンベンションを通じてマッチングやイノベーションが生まれ、いろいろな化学反応が起きているのは施設としてこの上ない喜びです」と話す。利便性に富み、企画から当日の運営までワンストップでできる施設として、新たなコンベンションの在り方を発信している。

大阪駅周辺 地区

西日本最大のターミナルを有し、関西の主要都市や関西国際空港を通じた海外へのアクセス性にも優れた都市圏の中枢に位置しており、その高度な都市機能を生かしたプロジェクトを進めている。

ライフ分野・グリーン分野に共通したプロジェクトとして、ナレッジキャピタルを中心に、有能な人材や世界的な企業の集積により新しい価値を創造することを目指す。

当地区周辺の研究機関や大学、ベンチャーキャピタル、外国人向けの医療機関や文化機能等、国内外の知的人材の集積を支えるための都市インフラと相互連携することで、一層の国際競争力強化を図る。

